

(別紙)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業
(施設等に対する導入支援) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 埼玉県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジンキョウアイカイ
法人名	社会福祉法人共愛会
フリガナ	トキワヨウ
事業所名	ときわ寮
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
46.2 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: ☐ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☒ 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) Vesta見守りカメラシステム(1台導入)

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E (A × C × D)	1人あたり 業務時間 (C × D / A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B × 12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)	1 人	30 件	360 件	60 分	360 人時間	360 時間
	5 その他の直接介護	1 人	30 件	360 件	60 分	360 人時間	360 時間
間接業務	6 巡回・移動	1 人	30 件	360 件	60 分	360 人時間	360 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			90 件	1,080 件	180 分	1,080 人時間	#DIV/0!

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

＜※1＞B. ひと月当たり発生件数の算出方法

今回1名の利用者を対象に居室にセンサーを設置しました。1日＝1件として月30日＝30件として算出しています。

＜※2＞D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

居室内における放尿行為、疑似発作や自身に関心を引かせる為に火報の非常ベルを押そうとする行動などがあった際、その都度支援員が居室に赴き対処する時間を概ね合計しています。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E (A × C × D)	1人あたり 業務時間 (C × D / A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B × 12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)	1 人	30 件	360 件	30 分	180 人時間	180 時間
	5 その他の直接介護	1 人	30 件	360 件	30 分	180 人時間	180 時間
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認	1 人	30 件	360 件	30 分	180 人時間	180 時間
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			90 件	1,080 件	90 分	540 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

＜※3＞B. ひと月当たり発生件数の算出方法

今回1名の利用者を対象に居室にセンサーを設置しました。1日＝1件として月30日＝30件として算出しています。

＜※4＞D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

居室における放尿行為、疑似発作や自身に関心を引かせる為に火報の非常ベルを押そうとする行動などがあった際、その都度支援員が居室に赴き対処する時間を概ね合計しています。ただ、センサー設置前は職員が未然防止の為に都度確認や、その際にご本人が職員の気を引くための行動をされることがあるため、その対応に要した時間などが軽減された為に1件当たりの対応時間は減っている。

年間業務時間数想定削減率(%)

50.0%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

特定の行動障害を持つ利用者に対して、日によってマンツーマン対応となることも多く夜間帯など支援員の人数が少ない場合は、巡回など頻繁に必要であったが、本システムを導入することでモニターでの把握等がよりスムーズになり職員の負荷軽減、また利用者の事故防止にも繋がっている。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

・夜間など職員数が少ない時間帯に、夜勤者の精神的負担の軽減など効果を得られている。

(5)今後の課題

・導入コストが比較的高いのである程度限られた特定の利用者の方のみとなっていること。

(6)気づき等について

利用者の方のプライバシーにも配慮されている為、ご家族の同意も予想以上にスムーズに得られたこと。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	有
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	103,000円
職員の賃上げ等への充当	無
その他職場環境の改善への充当(※1)	有
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	無

※要していた人件費を年収480万円、年間2,080時間稼働(支援員1名当り)で仮定計算

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

職場におけるICT化の整備(パソコンの増台など)

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。